

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)	所蔵者
70	森岡柳蔵	雪景色		油彩・カンヴァス	45.0×52.9	
71	森岡柳蔵	陽の当たる丘		油彩・カンヴァス	50.0×60.0	
72	森岡柳蔵	風景		油彩・カンヴァス	60.0×72.5	鳥取県立博物館
73	森岡柳蔵	魚崎より六甲を臨む	1938年	油彩・板	24.0×33.3	
74	森岡柳蔵	東海道金谷駅上より	1935年	油彩・カンヴァス	24.0×33.0	
75	森岡柳蔵	道のある風景	1933年	油彩・カンヴァス	46.0×60.0	
76	森岡柳蔵	夕暮れ(奥沢)	1930年	油彩・カンヴァス	45.5×60.5	
77	森岡柳蔵	雪景色	1938年	油彩・カンヴァス	25.5×34.0	
78	森岡柳蔵	郷里風景	1934年	油彩・カンヴァス	46.0×53.0	湯梨浜町立図書館
79	森岡柳蔵	残雪		油彩・カンヴァス	33.2×45.0	
80	森岡柳蔵	春景色		油彩・カンヴァス	45.0×55.0	
81	森岡柳蔵	湖畔		油彩・カンヴァス	50.0×61.0	湯梨浜町立図書館
82	森岡柳蔵	池と白壁の蔵		油彩・カンヴァス	44.0×60.0	
83	森岡柳蔵	風景(東郷湖を臨む)		油彩・カンヴァス	46.0×53.0	
84	森岡柳蔵	鳥取の田植風景		油彩・カンヴァス	60.0×80.0	
85	森岡柳蔵	智頭風景		油彩・カンヴァス	38.0×45.5	
86	森岡柳蔵	村の風景		油彩・カンヴァス	48.0×59.0	
87	森岡柳蔵	せせらぎ		油彩・カンヴァス	60.7×45.6	
88	森岡柳蔵	寒梅		油彩・カンヴァス	65.0×53.1	
89	森岡柳蔵	道ばたの樹	1950年	油彩・カンヴァス	50.0×61.0	
90	安岡信義	読書(緑陰)	1915年	油彩・カンヴァス	80.0×60.5	鳥取県立博物館
91	安岡信義	夏の河岸	1911年	油彩・カンヴァス	45.5×61.0	鳥取県立博物館
92	安岡信義	雪景		油彩・カンヴァス	60.0×80.0	鳥取県立博物館
93	香田勝太	秋草		油彩・カンヴァス	168.5×81.5	米子市美術館
94	香田勝太	漁港	1940年	油彩・カンヴァス	89.7×130.5	米子市美術館
95	森岡柳蔵	木漏れ日		油彩・カンヴァス	60.5×49.8	
96	森岡柳蔵	本を読む少女		油彩・カンヴァス	61.0×50.0	
97	森岡柳蔵	娘 恵美子	1927年	油彩・カンヴァス	90.0×72.0	
98	森岡柳蔵	読書	1930年	油彩・カンヴァス	61.0×49.0	倉吉博物館
99	森岡柳蔵	自画像	1931年	油彩・カンヴァス	52.8×40.5	
100	森岡柳蔵	自画像		油彩・カンヴァス	53.0×45.0	
101	森岡柳蔵	婦人像	1919年	油彩・カンヴァス	40.9×31.7	
102	森岡柳蔵	上坂熊勝像	1926年	油彩・カンヴァス	46.5×38.2	岡山大学医学部
103	森岡柳蔵	箕浦勝人像	1929年	油彩・カンヴァス	90.0×72.0	
104	森岡柳蔵	片岡健吉像	1926年	油彩・カンヴァス	99.0×72.0	
105	森岡柳蔵	F氏像	1953年	油彩・カンヴァス	45.2×37.5	
106	森岡柳蔵	きのこ		油彩・カンヴァス	27.0×45.3	
107	森岡柳蔵	なすび		油彩・板	24.0×33.0	
108	森岡柳蔵	野菜		油彩・カンヴァス	31.0×39.0	
109	森岡柳蔵	夏の野菜		油彩・カンヴァス	33.0×45.0	
110	森岡柳蔵	柿	1931年	油彩・カンヴァス	35.0×25.0	
111	森岡柳蔵	三つのリンゴ	1952年	油彩・板	27.5×35.5	
112	森岡柳蔵	バラ	1918年	油彩・板	35.0×26.9	
113	森岡柳蔵	バラ		油彩・板	33.2×23.9	
114	森岡柳蔵	つばき	1947年	油彩・板	32.0×23.0	
115	森岡柳蔵	芍薬		油彩・カンヴァスボード	32.0×41.0	
116	森岡柳蔵	花	1930年	油彩・カンヴァス	52.0×40.0	
117	森岡柳蔵	バラ		油彩・カンヴァス	44.5×26.5	
118	森岡柳蔵	紫陽花		油彩・板	32.7×26.5	
119	森岡柳蔵	ダリア		油彩・カンヴァス	45.0×38.0	
120	森岡柳蔵	郷里のスケッチ	1953年	鉛筆・紙		湯梨浜町立図書館
121	森岡柳蔵	郷里のスケッチ	1953年	鉛筆・紙		湯梨浜町立図書館
122	森岡柳蔵	郷里のスケッチ	1953年	鉛筆・紙		湯梨浜町立図書館
123	森岡柳蔵	郷里のスケッチ	1953年	鉛筆・紙		湯梨浜町立図書館
124	森岡柳蔵	郷里のスケッチ	1953年	鉛筆・紙		湯梨浜町立図書館
125	森岡柳蔵	郷里のスケッチ	1953年	鉛筆・紙		湯梨浜町立図書館
126	森岡柳蔵	郷里のスケッチ	1953年	鉛筆・紙		湯梨浜町立図書館
127	森岡柳蔵	郷里のスケッチ	1953年	鉛筆・紙		湯梨浜町立図書館
128	森岡柳蔵	郷里のスケッチ	1954年	鉛筆・紙		湯梨浜町立図書館
129	森岡柳蔵	郷里のスケッチ	1953年	鉛筆・紙		湯梨浜町立図書館
130	森岡柳蔵	郷里のスケッチ	1953年頃か	鉛筆・紙		湯梨浜町立図書館
131	森岡柳蔵	郷里のスケッチ	1953年	鉛筆・紙		湯梨浜町立図書館

● 「OCEAN! 海はモンスターでいっぱい」

会 期 平成23年7月26日(土)～平成23年8月28日(日) 44日間(休館日なし)
入場者数 16,482人(一般7,899人、学生・高校生1,109人、小・中学生4,985人、幼児2,489人)
会 場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室
主 催 鳥取県立博物館、読売新聞社
協 賛 日本通運株式会社、株式会社モリックスジャパン、株式会社吉備総合電設、三和商事株式会社
特別協力 林原自然科学博物館
協 力 岩国市立ミクロ生物館、大阪市立自然史博物館、海洋研究開発機構、笠岡市立カブトガニ博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、蒲郡市生命の海科学館、きしわだ自然資料館、京都大学総合博物館、珠洲市教育委員会、太地町立くじらの博物館、東京工業大学、どこでも博物館、栃木県立博物館、中川町エコミュージアムセンター、名古屋大学博物館、日経ナショナル ジオグラフィック社、沼田町化石館、ピーアンドエー・インターナショナル、福井県恐竜博物館、ふくしま海洋科学館、三重県立博物館、むかわ町立穂別博物館、早稲田大学、Formosoft International Inc.

入 館 料 一般800円(団体・前売600円)・学生以下無料

内 容 海を舞台とした6億年の生物の進化を紹介する展覧会。全長12mの巨大なクビナガリュウ、全長18mの古代クジラ「バンロサウルス」、そして今を生きている様々な海洋生物まで約300点の全国的にみることのできない貴重な資料を多数展示し、映像や体験コーナーなど駆使して年齢に関係なく、楽しく学べる工夫をした。このことで、海という多彩な環境に適応した海の「モンスター」たちの繁栄と絶滅の歴史をみつめ、進化の意味を学び、未来の海を考える機会を提供した。この展覧会は、鳥取会場を皮切りに、1年間をかけて大阪、岡山、名古屋と全国を巡回した。展示資料の約1/3にあたる90点程度は当館所蔵資料である。

展 示

第1展示室：「海にくらす」

《海というすみか》イリエワニ、ソウハチ、クロアナゴ、ヨウジウオ、オサガメ、マンボウ、セグロウミヘビ、リュウグウノツカイ他

《海の大きな生きものたち》タラソメドン、アルケロン、タカアシガニ、クロミンククジラ他

《とらえる、食べる》ウミユリ、イワシクジラ、マイワシ、アオウミガメ、ネコザメ他

《泳ぐ、はう》アンモナイト、カツオ、エラブウミヘビ、タラバガニ、

第2展示室：「6億年 海のニュース」

《多様な生物あらわる!》オットイア、ピカイア、アノマロカリス、オパビニア他

《魚のいない海》オウムガイ、ケファラスピス、三葉虫、ウミサソリ、アンモナイト他

《魚の登場》ダンクルオステウス、クリマチウス、シファクティヌス、シーラカンズ他

《ペルム紀末の大絶滅》腕足類、フズリナ他

《爬虫類、海へ》メソサウルス、ウミワニ、エラスモサウルス、モレノサウルス、イクチ

オサウルス、モササウルス、コルソケリス他
《哺乳類、海へ》ツリテラ、パキケトウス、バシロサウルス、オウギハクジラ、ステラー
カイギュウ、アロデスムス、デスモスチルス、キタオットセイ、ワモンアザラシ他
《今も生き続ける》リュウグウオキナエビス、シーラカンス、カブトガニ、オウムガイ他

〈関連行事〉

- (1) くびなが竜をつくろう！

期 日：7月30日（土）午後2時～4時／会場：会議室／参加人数（定員）：45人

- (2) 化石レプリカをつくろう！

期 日：8月7日（日）午前10時～12時／午後1時30分～3時30分／会場：会議室／参加人数
（定員）：60人

- (3) 海のモンスターをスケッチしよう！（展示室内、随時）

- (4) 観察シート／さがしてみようシート（展示室内、随時）

● 「シリーズ 鳥取の表現者 File. 03 大久保英治_あるくことから始まる」

会 期 平成23（2011）年11月16日（水）～12月25日（日）

※公開制作期間：11月16日（水）～12月1日（木）、展示公開期間：12月3日（土）
～12月25日（日）

開館日数：37日間

入場者数 1,751人

主 催 鳥取県立博物館

会 場 鳥取県立博物館 第1・2特別展示室

協 賛 日本通運、株式会社モリックスジャパン、三和商事株式会社、株式会社吉備総合
電設

入 館 料 一般400円（前売り・団体300円）

内 容 「シリーズ 鳥取の表現者」は、鳥取にゆかりのある、現在活躍中の作家や近年亡
くなったが活発な制作をしていた作家を、年齢、ジャンルに制限を設けることな
く、広い視野を持ってとりあげるシリーズ企画展である。大久保英治（1944年～）
は兵庫県出身で、現在、鳥取県岩美町内と大阪市内にアトリエをもつ美術家であ
る。鳥取県内では、アトリエを設けた1999年以降今日まで、野外設置作品を中心
に旺盛な制作活動を行ってきた。またその間、国内外で個展を開催し、越後妻有
アートトリエンナーレなど様々なグループ展にも参加している。

本展では、歩くことをきっかけにしてさまざまな表現を展開してきた大久保の
仕事を、過去の作品と資料からなる第一部「なにものかに則してあるく、或いは
非日常の歩行」と、会場で制作する新作を中心とした第二部「おのずからあるく、
或いは日々の歩行」の展示により紹介した。